資料２

連携型中高一貫教育校に関する委員意見の整理

（１）連携生徒の確保策について

・一般の生徒に比べ、学びに対するモチベーションが低い傾向があり、学力が伸び悩んでいる生徒がいる。刺激を与える場面が必要である。

・高校入学後に「何を学ぶのか」目的意識が必要である。中学３年次の連携クラスを選択する時期にキャリアガイダンス指導を検討すべき。

・地元の高校に対する地域や中学校の期待を、高校側はしっかり受け止める必要がある。高校の先輩の頑張る姿を中学生に見せていくべき。

（２）発展学習の在り方

・中学３年次の夏季休業の活用や３学期の先行活動を検討すべき。オンラインも活用すべき。こうした期間を活用し短期留学等も考えられる。

・高校では外の世界と接点が持てる魅力的なカリキュラムを検討し、社会で求められるサイエンスやグローバルな力を養うことが必要である。

・その力を習得するための教育を中学で先取りすべき。(イベントは学年に関係なく参加できるプログラムが望ましい)

・義務教育と高校の教育では指導方法や学び方が異なる。中高の教員で指導方法を共有し、中学と高校の連携を充実していく必要がある。

（３）中高連携した探究活動の在り方

・探究心は中学生の時に芽生えるので、探究活動は中学段階から実施することが望ましい。

・数学や理科など普通科目に比べ、国の学習指導要領で探究活動の具体的な内容が示されておらず中高の繋がりがない。この際、中高一貫した活動を検討することが望ましい。

・中高の連携生徒の交流を充実するなど縦の繋がりを意識できる仕掛けづくりが必要である。